

製品名: ウィルムス腫瘍タンパク質ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21396

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:55kD;Observed MW:55kD

抗原情報

遺伝子名	WT1
別名	
遺伝子 ID	7490.0
SwissProt ID	P19544
免疫原	ヒト WT1 の合成ペプチド

背景

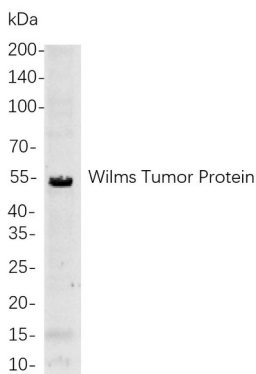
細胞局在: 核。この遺伝子は、C末端に4つのジンクフィンガーモチーフ、N末端にプロリン / グルタミンに富む DNA 結合ドメイン

を有する転写因子をコードする。泌尿生殖器系の正常な発達に不可欠な役割を果たし、ウィルムス腫瘍患者の少数のサブセットで変異が認められる。この遺伝子は、複雑な組織特異的かつ多型的なインプリンティングパターンを示し、異なる組織において母系および父系アレルから両対立遺伝子および片対立遺伝子発現を示す。複数の転写バリエーションが報告されている。いくつかのバリエーションでは、最初の AUG の上流でインフレームの非 AUG (CUG) 翻訳開始コドンが使用されていることが示唆されている。PMID:7926762 の著者らは、WT1 mRNA がヒトおよびラットにおいて RNA 編集を受け、このプロセスが組織特異的かつ発達の制御されているという証拠も示している。[RefSeq 提供、2015 年 3 月]

研究分野

-

画像データ



マウス精巣細胞ライセートのウェスタンブロット解析（ウィルムス腫瘍タンパク質ウサギ mAb を使用）。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用しました。